

3) 学生会

・工学部学生会の活動状況

2004 年度に、工学部学生支援委員会の指導の下で、全ての学科・系に学生の自治組織である学生会が設立された。2005 年度には、全学の学生委員会から出された「学生の公的組織化の要請」に基づき、各学科・系の学生会を統合した工学部学生会が組織された。この際、各学科の学生会代表が工学部学生会のメンバーとなること、および工学部学生会は、工学部(学士課程)の学生だけでなく、大学院自然科学研究科の工学系の学生も合わせて組織することとした。

2016 年度の工学部学生会は各学科代表で構成され、会長には山下賢斗(情報電気電子工学科 3 年)、副会長には竹原裕二(社会環境子工学科 3 年)がそれぞれ選出された。

工学部学生会では工学部学生会室を拠点として定期的に学生会会議を行い、工学部学生会の運営方針や各学科の学生会の現状と問題点、今後の工学部学生会の活動内容などについて意見交換を行なっている。また、工学部運動会の運営や留学生との交流会などの自主的な活動を行っている。また、秋季に開催される工学部長と学生代表の懇談会では工学部の学生を代表して意見や要望を述べ、学生会長、副会長及び会計は、さらに学長と学生代表の懇談会にも出席している。

・学生会主催による復活第 8 回運動会

1952 年 10 月 26 日に工学部グラウンドで新制大学の第 1 回工学部運動会が開催されて以来、熊本大学工学部運動会が開催されてきたが、年々参加者の減少は止まらず 1999 年の第 47 回運動会を最後に工学部運動会が中止された。

一方、工学部では学生の自治組織を育成するという大学の方針に従い、工学部学生会を積極的に支援してきた。運動会中止の決定の後、学生会はスポーツ大会等の企画・運営を行っていたが、2007 年には運動会再開の声に後押しされる形で、全競技を一日で行う集合型のスポーツ大会を企画した。その際のスポーツ大会の参加者は 200 名を超えており、この種のスポーツ大会のニーズが学生の中に十分にあることが確認された。そこで学生会は先輩の運動会復活の想いを引き継ぎ、復活第 1 回工学部運動会を 2008 年 10 月 25 日(土)に開催した。

それ以来、学生会が中心となり、毎年運動会を開催しており、2016 年 11 月 26 日(土)に、武夫原グラウンドにて第 9 回工学部運動会を開催した。

運動会の名物である応援団の演舞も、練習の成果を発揮して堂々と披露された。日頃あまり声を出すことが少ない学生も、運動会では学科毎に一丸となって競い合い、工学部学生の重要なイベントとして非常に盛り上がっている。

昨年度は開催が大学の諸行事と重なり武夫原で開催することができず、学外の坪生川湧水公園開催となったが、本年度は早期に武夫原にて開催を計画・準備を進めることで武夫原での開催を実現することができた。

・学部長と学生代表の懇談会

2016 年 12 月 8 日(水)18:00-19:25 自然科学研究棟 2 階会議室において、学生会と工学部長との懇談会を実施した。学生側から学生会会長・山下賢斗ほか各学科学生会代表 7 名、工学部側から工学部長、富村副学部長、教務委員長、学生支援委員長、各学科学生支援委員、工学部教務担当係長の 13 名が参加した。

今回は懇談会実施前に学生会より提出されていた〈要望・提案〉に回答するかたちで懇談会が進められ、その後、参加者による質疑応答形式のフリートークを行った。

学生からの、教養科目数の増加・掲示内容のメール送信・車両入構の規制緩和・自転車駐輪状況の改善・熊本地震による被害の早期修復等の 9 件の提案に対し、学部側との意見交換を行った。

地震の影響による被害の修理については、いまだ壊れたままの箇所も多いが、優先順位を定めて順次実施するため、しばらく我慢して欲しいとの依頼がなされた。また、駐輪状況の改善については学生目線でのアイデアを提供してもらいたいとの要望が出された。その他、工事予定期間を学生へ周知して欲しいとの要望については、掲示等により対応することになった。

更に、学部から、年に一度のこの懇談会を行事的に1回で終わらせないで、学生と教職員が一緒になって解決していかなければならない課題について、これからも意見交換をしながら意思の疎通を図っていききたいとの話があった。